

1.研究課題の名称

保険薬局薬剤師と病院薬剤師の連携を活かした外来患者に対する薬剤調整への介入について

2.研究の目的及び意義

当院では入院患者に対する薬剤調整に積極的に取り組み、薬物治療の最適化を進めてきた。一方で、外来患者については当院薬剤部が直接関与する機会が乏しく、ポリファーマシーや残薬の問題に十分な介入ができていなかった。保険薬局薬剤師は患者の服薬状況や残薬を把握しているものの、医師へ薬剤調整を提案することには心理的・業務的なハードルがあり、その情報が十分に活用されていない現状がある。

そこで本研究では、保険薬局が保有する服薬情報・残薬情報を病院薬剤師が受け取り、医師へ薬剤調整を提案する連携体制を構築し、外来患者の薬物治療の適正化を図ることを目的とする。この取り組みにより、有害事象の減少、服薬アドヒアランスの改善、不要薬剤減による医療費の適正化など、多面的な効果が期待される。また、薬剤調整後の患者の服薬コンプライアンスや満足度を評価し、この連携モデルの有用性を検証する。

本研究により、地域医療における薬剤管理の質向上に寄与する新たな仕組みの確立が期待される。

3.研究対象者の選定方針

当院外来を受診し、当院近隣の薬局がかかりつけの方で、減薬希望があり薬学的にも薬剤調整が望ましいと考えられる患者

4.研究予定期間

西暦2026年6月3日から西暦2027年3月31日